

三十五年

一月十四日 末光續退舎ス
一月十五日 石沢 日高地方ニ旅行セラル
佐々木徹郎入舎
夜寄宿舍食堂ニテ月次会有リ
二月六日 清水和三郎入舎ス
二月十二日 半沢（私立中学校生徒）入舎ス
森四郎退舎ス
石沢副舎長旅行ヨリ帰舎セラル
三月廿九日 土曜日 此夜月次会開カル、石
沢舎長ノ舎生相互ノ注意スヘキ点ニツイテノ
論告並ビニ涅槃杯ニツキテノ廃止論者有シモ
廃止セサル事ノ事定マリ、委員ヲ改撰ス、当
撰者左ノ如シ
吉川 十二点 （書記）
吉田 十二点 （会計）
有本 十点 （衛生）
松井 十点 （賄）

次に余興アリテ就寝ス
四月二日 旧副舎長ニシテ本舎ノ為メ尽力浅
カラザリシ井街顕兄来舎セラル
四月三日 此夜七時二三名ヲ余スノ他舎生八
独立教会ニ於ケル井街 二招カル
四月四日 此日正午ニ於テ井街兄並ビニ旧在
舎生ヲ聘シテ共ニ食堂ニ会食ス、社長宮部先
生臨席セラル
四月七日 本荘義雄肋膜炎ノ襲ハル、所トナ
リ患フル事早ヤ十数日ナリシモ平癒ノ期抄ち
かんか為メ北辰病院へ入院ス
四月八日 清水和三郎所用ノ為メ帰郷ノ途ニ
着カル、時ニ散ル八桜ノ花片ナラテ輝カケル
六花ナリキ
四月十九日 広瀬久雄兄ハ学术研究ノ為メ登
別近在ノ森林へ出張セラル、多分帰舎セラル
ノ時期ハ一ヶ月ノ後ナラント
四月二十三日 月日ノ蝕スルヲ見テ八天ノ憤
リテ下界ヲ撲滅スルノ兆ナラントテ恐怖措ク
能ハザリシ古ハ知ラズ今ヤ幾多ノアストロノ
マーニヨリテ却リテ研究ノ好材料トシテ此蝕
ヲ歓迎セラレツ、アルハ又快ナラズヤ、
本日八午前三時四十分ヲ以テ月ノ既蝕ヲ見ル
ベシトノ曆報ニヨリ当舎内又快夢ヲ捨テ、観
測ニ従事センアストロノマーノ二三アリトカ
ヤ
久シク入院中ナリシ本所君ハ病勢大ニ怠リ、
本日退院帰舎セラレタリ
四月二十四日 旧曆弥生モ早ヤ半バヲ過ギテ
蕾ノイトモ濃ヤカニ打チ掛リ郊外ノ眺メモ得
モ云ハレザルハ関東ノ今日此頃ナルラメ、サ
レド打チ眺メル山々ハ棚引ク霞ノソレナラデ
名残ヲ留ムル白雪ノイミジウ寒ク見ヘテ西比
利垂風ノ身ヲ切ル許リ吹キスサブモ亦
今日 候ナラン、然ルニ今時ノ日和ニ似ズ
此日ノ 暖ナルハ実ニ意 年ニ入り

嘗テ見ザル所ナリキ

四月二十六日 四月最終ノ土曜日ニシテ例ノ如ク月次会開カレヌ

数日前ヨリ掲ゲラレタル告示ハ曰ク、当日ハ某専門家並ビニ舎長ノ談話及ビ両舎生ノ演説アリト、五時半例ノライスカレイニ腹ヲ肥ヤシ七時ヲ以テ着席シ、先ヅ辻垣兄八大和自慢談トシテ神社仏閣ヲ紀行的ニ語ラレタリ、例ノ滑稽口調並ビニ会話的演述ハ吾人ノ腹ヲ減ラサシムルト共ニ感ヲ深カラシメタリ、略一時間半ノ長演モ一同ヲシテ倦怠セシメザランハ感服ノ外ナシ、次ニ有元兄ノ土用干テフ題下ニ先ヅニーチェ論者ノ輩出、ロシア、トルストイ氏ノ英国文学ノ攻撃アリシ事、天体研究ノ興深キモノナル事、並ビニ最後ニ大和民族ノ最祖ハ何レニアリヤヲ究ムルノ如何ニ「インタレスト」多キカラ彼レ自身ノ言語研究ノ結果ヨリ演釈セラレ尤モ信ゼラルベキ一説アル事ヲ照介セラレ喝采ノ中ニ降壇セラレヌ、時ハ早ヤ十時ヲ過ギシカバ舎長ノ談話ハ見合ハサレテ茶話会ニ入りタリ、席上テニス会計ノ難況ニ対スル処分案呈出サレ、来ル十一月迄各自十五錢宛ヲ新聞代ニ合セテ徴集スル事トナシタリ、談ハ端ニ端ヲ生ジテ遂ニ十二時ニ至ル迄語り続ケ此ニ閉会スル事トハナリヌ

四月廿九日

会計法ノ手段トシテ今日迄実施セルハ実ニ本舎ノ意志ニ反シテ六円經濟ナリキ、サレバ各月ニ於ケル舎費ノ過不足ハ凡テ平均定額六円ノ内ニ賄ハレ実費經濟トシテハ全然其平旨ヲ欠キシハ石沢副社長ヲ始メ各委員ノ認ムル所トナリ月次決算法ニ断然改正スル事トナリ、各自負担額ハ今夕ヲ以テ食堂ニ掲出セラレタリ、前月迄ハ炭費徴集シ来リシカバ定メシ本月分ノ徴集ヲ見合スニ於テハ其負担額多カラント会計ノ憂フル所ナリシニ拘ラズ総額金五円六拾七錢トノ報告ハ吾人ヲシテ其廉ナリシヲ驚嘆セシメタリ

五月五日

時ハ維レ端午ノ節句、嬉々タル幼児ノ所外ニ戯ルベキニ天候ハ之レヲ好マザルカ終日曇リリテ風強ク二時頃ヨリハ雨サヘ催ホシ来リテ蓄笑ミヌトノ便リダニ聞カザルニ丸山ニ觀桜会トテ幾千ノ白衣女工勇マシク製麻会社ヨリ練リ出デシモ空模様悪シトテ急ギ足ニ(千鳥足モ交リツ)白腰ノ蟻軍トモ見誤フベキ女群ノ当舎前ヲ過ギシモ物珍シキ丈ケ可笑カリキ此日ハ第一月曜ニ当リシカバ委員会ヲ開キツ、二名ノ中学生(一、二年ノ兩人)入舎ノ申込アリシガ為メ之レガ許否ノ議ヲバ懲ラシテ本舎ノ志望並ビニ維持上ノ方針トシテ総員中三分之一ノ中学生ノ在舎ヲ保持スル事トシ、決シテ内ニ渡ルモ以上ニ出デシムル事ナキ事ニ定メタリ、サレバ当時恰モ六名ノ中学生ノ

在舎スルノミナレバ余リニ齡行カザルノ恐レ
アレドモ彼等ヲ許容スルハ至当ナラント議ハ
決シ之ヲ舎長ニ議ル事トハナリヌ

五月十二日

兼テ肋膜ヲ襲ハレタル本庄義雄氏葍段輕快ニ
赴カレシモ静養ノ上恢旧ノ全カラン事ヲ期シ
本日一時舎ヲ退キテ故山ヘ歸ラレタリ
中学校一年生八田盛忠君入舎セラル

五月十五日

広瀬久雄氏旅行先キヨリ歸ラル

五月十六日

石沢舎長八道庁ヨリ出張ヲ命ゼラル、所より
全日ヨリ凡ソニヶ月ノ予算ヲ以テ当地ヲ出發
セラレタリ

札幌中学一年生瀬戸太一君新ニ入舎セラル

五月二十一日

将来ニ於ケル寄宿舍會計若クハ修繕用等ノ補
助ニ供センガ為メ桐樹ノ栽培ヲ企テ本日日傭
一人ニ地盤ヲ作ラシム

五月二十二日

井水ノ余リニ不潔トナリシガ為メ井戸浚ヘノ
必要ヲ感ジ数氏ハ共ニ尽力セラレ五時前ニ全
ク清浄ニ歸セシメタリ

五月廿四日

此日午前人夫一人ヲシテ先日起セル地面ニ桐
苗四十本ヲ植エシメタリ

月次会催ホスベカリシモ舎長ノ都合或ハ舎生
ノ都合アリテ本月八見合ハス事トナシヌ

五月三十日

會計報告ハ出デテ各自金五円三十七錢ト、前
月ニ比シ三十錢ノ廉、賀スベキカナ

五月三十一日

予修科第二年生ナル七氏ハ修学旅行ノ為メ幾
春別地方ヘ遠足セラレ居間

六月五日

樹影風涼シキてにすコートハ今日ヲ晴レト許
リニ全舎生ヲ連ネタリフシ紅白勝負ニ各自ノ
技倆ヲ顯ワサセンガ為メ他、二三ノ欠員ハ來
賓ヲ以テ補ヒ白軍勝テバ紅軍次ギ、紅軍敗レ
テハ白軍又次ギ遂ニ両將鋒ヲ交ユルニ至リキ
ハ全ク技倆伯中シ次ツス迄漕ギ付ケ遂ニ紅軍
勝利トナリシハ実ニ花々シカリキ、晚餐ハ例
ノライスカレーニシテ各自十二分ニ腹ヲ満シ
タリ

六月十四日

郷里ニ所用ノ為メ赴カレタル清水和三郎兄ハ
本日漸ク歸舎セラル

六月二十二日

先日歸舎セラレシ清水和三郎兄ハ又々予備兵
召集ノ時期ノ迫リシガ故本日郷里ヘ出發セラ
レタリ、吉田守一君ハ急性魔刺利亞ニ犯
サレ 学期試験ニモ応ズル能ハ
ズ実ニ憫ムベキ事ニコン

六月廿八日

農学校卒業諸君七氏ノ送別ヲ兼ネ月次会ハ開

カレヌ、委員手製ノフライハ各自ヲシテ舌鼓
セシメ、宮部先生ノ履歴談ハ一同ヲシテ興味
深々セシメ後、紅茶ト菓子ニ腹ヲ肥ヤシ各自
ノ別離ノ辞アリテ余興ニウツリ全ク閉会セシ
ハ一時過タル頃ナリキ

委員改撰ノ結果左之如シ

吉川君 十六点

吉田君 十五点

宮松君 十二点

辻垣君 八 点

武田君 八 点

辻垣君ト武田君トハ全点ナリシカバ抽籤ノ
結果辻垣氏ニ変換アリ

六月廿九日

佐々木君八本日帰省セラル

六月三十日

会計報告ハ出タリ曰ク 各自金五円九十八銭
宛ト、畢竟之レ月次会ノ馳走其他食事ノ美ナ
リニシ基ツクモノ也

橋本君、工藤君、有元君、松井君、逢坂君退
舎セラル

七月四日

吉田、高松ノ両兄八本日帰省セラレタリ

七月六日

鈴木力治君八本日限り退舎セラレタリ

七月十三日

藤井為次郎君八本日限り退舎セラレ休暇ヲ故
山ニ過サン為メ本日内地ヘ向ケ出発サレヌ

七月十五日

桐樹ニ肥料ヲ施サンガ為メ日傭一人ヲ雇フ

七月二十二日

八田君八本日帰省セラル

私立中学ヲ始メ札幌中学ノ学期試験モ本日ヲ
以テ終了セシヲ以テ在舎十二ノ者例ノライス
カレイニ舌鼓ヲ打ち八時ヨリ食堂ニ畳ヲ敷キ
詰メテ快談時ノ移ルヲ忘レタリ

七月二十四日

武田、瀬戸ノ両君本日帰省セラル(食事廿三
日迄)

七月廿六日

副舎長石沢氏本日出張先キヨリ帰舎セラレタ
リ

七月廿八日

村上雄之助君本日帰省セラル

八月五日

広瀬久雄氏本日ヲ以テ退舎セラレタリ

八月十二日

青木三哉君本日限り退舎セラル

八月十四日

島野重太郎君八本日帰省セラレ吉田守一君帰
舎セラル

八月廿四日

村上君帰舎セラル

八月廿六日

物置小屋建増ノ為メ人夫一人ヲ傭フ

八月廿七日
瀬戸太一君帰舎セラル
八月廿八日
島野重太郎君帰舎セラル
物置小屋整頓並ビニ板材木等運搬ノ為メ人夫
一人ヲ傭フ
八月三十日
井戸換ヘヲナス
八月三十一日
八田君帰舎セラル
九月一日
武田平三郎君ノ母君他界ノ人トナリシトノ報
ニ接シタルヲ以テ取り敢ヘズ見舞状ヲ出ス
九月四日
予修科一年生笠井幹夫氏本日入舎セラル
九月八日
百瀬俊太郎君（予修科生）本日入舎セラル、
但シ食事八九日ヨリ
佐々木徹郎君本日帰舎セラル、食事本日ヨリ
九月九日
農学校予修科一年生木村莊輔君入舎セラル、
但シ食事本日ヨリ
全森林科一年生羽生氏俊君本日入舎セラル、
但シ食事八十日ヨリ
九月十日
森林科二年生八木橋千弟君本日入舎セラル、
食事本日ヨリ
清水君本日帰舎セラル
木原七郎君（中学校四年生）本日入舎セラル
九月十一日
森川孫蔵（予修科生一年生）本日入舎セラル
但シ食事八十二日ヨリ
高松正信君本日帰舎セラル
農園ニテ屠牛セシトノ報ヘ早見ヲ飛バシテ六
斤ヲ齎ラシムルノ止ム無キニ出デヌ（？）新
来舎生諸子ハ如何ニ手製ノ西洋料理（カレイ
）ヲバ味ハレシカ聞カマホシキモノナルカナ
九月十二日
予修科一年生熊野御堂謙君本日入舎セラル、
食事本日ヨリ
土木工科第二年生館本庄二君本日入舎セラル
但食事十三日ヨリ
九月十四日
阿部忠一君本日退舎セラル
武田平三郎君帰舎セラル、但シ食事十五日ヨ
リ
九月十五日
川田小三郎（予修科一年）君本日入舎セラル
食事今日ヨリ
九月十六日
小野尚武君（予修科生一年生）入舎セラル、
食事本日ヨリ
前日来入舎申込者相次ギ前記ノ如ク数多ノ新
入舎生ヲ見シガ独り大内氏ノミ未ダ着舎セラ
レザルノミニテ此ニ満員トナレリ

九月十七日

「流シ」ヲ新調シ下駄箱ニ草履入レヲ作ル

九月十八日

掲示用塗板及ビ下駄箱一ケヲ新調シ猶ホ破損ノ硝子板ヲ嵌メ換ユ、去ル七月々次会席上ニテ撰任セラレタル委員八未ダ分担事務ヲ一定セザリシ為メ今宵評議ノ上左ノ如ク決定セリ但シ辻垣委員八都合ニヨリ退舎セラレタルヲ以テ同点ナリシ武田君ヲ以テ補欠セリ

会計 高松君
賄 吉田君
衛生 武田君
吉川君

九月二十日

月次会八舎長ヲ始メ全舎生 アリテ晚餐ヲ喫シ後演説余興ヲ以テ愉快ニ フ 大内君八今夕入舎セラレシモ食事八翌日ヨリ本月ヨリ舎費金一円ト改ム

九月三十日

上谷、武田ノ兩兄八中学校遠足ノ為メ本日出発セラル(室蘭方面へ)、食事翌日ヨリ

十月三日

女人夫一人ヲ雇ヒ周圀ヲ掃除セシム

十月六日

上谷、武田兩君遠足ヨリ帰舎サル、但シ夕飯ヲ食ス

十月五日(日曜日)

吉田守一君腸加多児ヲ憂ヘラレ為メニ北辰病院へ入院セラル

十月六日(月曜日)

小野尚武君八都合ニヨリ本日退舎セラレタリ

十月十日(木曜日)

吉田君八全快帰舎セラル

十月十四日(火曜日)

予修科一年生梶君(相模ノ人)入舎セラル

十月十五日

置替ヘノ為メ舎内

十月十九日(日曜日)

石沢副舎長八少シク患フル所アリテ本日札幌病院へ入院セラル

十月廿六日

学生基督教青年会幹事文学士高井君江原翁ト相携ヘテ当地青年会事業ノ為メニ来札、本日常舎ニ来ラル

十月三十日

十月分経費八意外ト高ク金七円〇貳錢宛ノ負担トナリ又

十月三十一日

八木橋君本日故アリテ退舎セラル

十一月一日(土曜日)

月次会ヲ開ク

十一月八日(土曜日)

佐々木徹郎君八本日限り退舎セラル、此夜清水君ノ長距離競争ノ勝利ノ祝賀ヲ兼ネ送別ノ会ヲ催ホス

十一月十日（月曜日）

中学三年生山口君並ビニ予修科一年生鈴木君
本日入舎ス、食事本日ヨリ

十一月十三日（木曜日）

ノ寄附ニヨリ時計一個ヲ食堂ニ掛ク

十一月十五日（土曜日）

寄宿舎創立第五周年記念会ヲバ開キ又、二年
以上ノ在舎生並ビニ委員タリシモノヲ聘シ六
時半ニ晚餐ヲ一堂ニ食シ、七時半列席石沢副
舎長ノ開会ノ辞、武田、黄金井、逢坂君ノ演
説ノ外当時ノ在舎生ニテハ吉田、松川君等ノ
演説アリテ終リテ菓子茶ノ饗応アリ、余興ハ
在舎生一同ニヨリテ成シ、皆快笑ノ内ニ会ヲ
閉チヌ

十一月十六日

熊野御堂君八家事上ノ都合アリテ本日突然退
舎帰郷セラル

十一月廿一日

久敷入院中ナリシ石沢副舎長ハ 本日退院
セラル、食事翌日ヨリ

十一月三十日

本月分総経費七円〇二銭

十二月廿一日

瀬戸太一君本日帰省セラル

十二月廿三日

館本君本日帰省セラル

十二月廿四日

本日帰省セラル

十二月廿七日

明治卅五年最終ノ月次会ハ今夕午後六時ヨリ
開カレヌ、吉田兄ノ体育上ノ注意ニ関スル経
験談、吉川氏ハ学生ハ如何ナル覚悟ト見解ト
ヲ学校生活ニ於テ保持スベキカ一大問題ナリ
トノ所感ヲ述ベラレタル後阿部某ノ北海道松
前藩ノ歴史談アリ、終リテ汁粉ノ饗応アリ、
歓談時ヲ費ヤス事少時、委員ノ改撰ヲナス、
之レニ先（立脱カ）テ委員撰挙法ノ改正ハ吉川
委員ヨリ宣告セラレヌ、曰ク、当舎委員ハ再
撰ヲ許サズト、其意ハ多クノ舎生ヲシテ舎務
ニ与ラシメンガ為メ也、投票結果左ノ如シ

笠井君 十七点 （書記）

羽生君 十四点 （衛生）

上谷君 九点 （会計）

島野君 八点 （賄）

引キ続キ文学部委員トシテ三名ハ撰バレヌ

松川君 十六点

梶 君 十三点

白瀬君 六 点

右委員改撰終リテト先ツ会ヲ閉チ、或ハ歌
留多ニ或ハトランプニ此処ニ一団、彼処ニ一
団皆興ヲ尽シテ散ゼシハ十二時頃

十二月廿九日

十二月分経費決算報告ハ出デヌ、曰ク六円八
十八銭ト

猶ホ炭ヲ用ユルモノニアリテハ六十一銭ヲ増

シテ七円四十九銭ヲ課セラレヌ

十二月三十日

大掃除ハ午前中各自ノ室ニ行ハレ、午後ヨリ
便所ヲ始メ食堂ニ至ル迄隈ナク行ハレヌ、一
同手拭デ口ヲ掩ヒ或ハ梯子ヲ取ルアリ、或ハ
箒ヲ取ルアリ、或ハ掃布掛ケニ汗ヲ流スアリ
テ一時ハ仲々ノ混雜ナリキ

十二月三十一日

明治三十有六年ハ弥々本日ヲ以テ辞シ去ラン
トス、当舎ガ此地ニ転ジテヨリ年ヲ送ル当ニ
三、其間幾多ノ学生ハ此舎ニ食シ、此舎ニ眠
リテ厚キ恩恵ヲ受クルモノナリ、サレド能ク
此恩恵ヲ心ニシテ常ニ舎ヲ思フモノ幾千

恐ル、単ニ普通寄宿舎ト視、嘗テハ
彼処ニ宿リ、今ハ此ニ眠食スノ浅薄ナル感ヲ
抱クモノ或ハ多カラザルヤヲ、

願クハ新シキ年ヲ迎フル今日吾等在舎生ハ勿
論退舎生ハ共ニ当舎ニ負フ所アルヲ想起シ、
当舎ノ維持ニ拡張ニ否々理想ノ寄宿舎ニ近

趣ケルノ覚悟ヲ持タレン事ヲ、
余ハ切ニ望ム所也、聊カ所感ヲ記シテ筆ヲ燒
ク、

帰省中ナリシ山口君夕方帰舎ス